

## 2) 実施状況

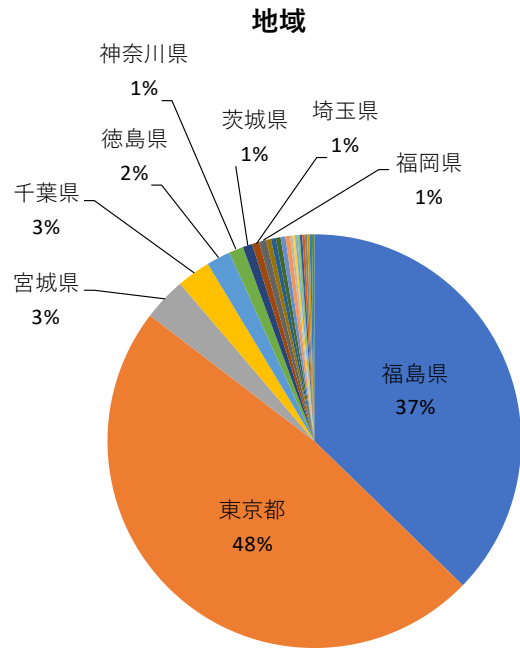
### ①参加者数(実績)

一般申込者数 1488 名 (534 家庭：子 865 名・保護者 623 名) の属性は下記の表、図の通り。  
 ※聴講参加 (体験キットの配付なし) での申込者数 92 名 (34 家庭：子 54 名・保護者 38 名) を含む。

地域

(家庭)

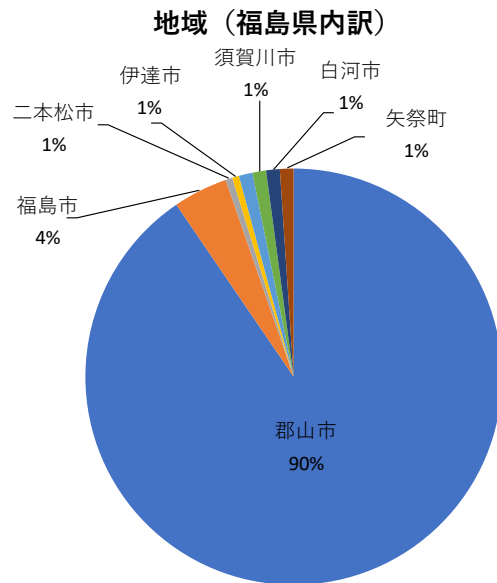
福島県	199
東京都	257
宮城県	18
千葉県	14
徳島県	10
神奈川県	6
茨城県	4
埼玉県	3
福岡県	3
群馬県	2
新潟県	2
静岡県	2
三重県	2
大阪府	2
岩手県	1
栃木県	1
山梨県	1
岐阜県	1
兵庫県	1
奈良県	1
和歌山県	1
香川県	1
高知県	1
宮崎県	1
	<b>534</b>



地域（福島県内訳）

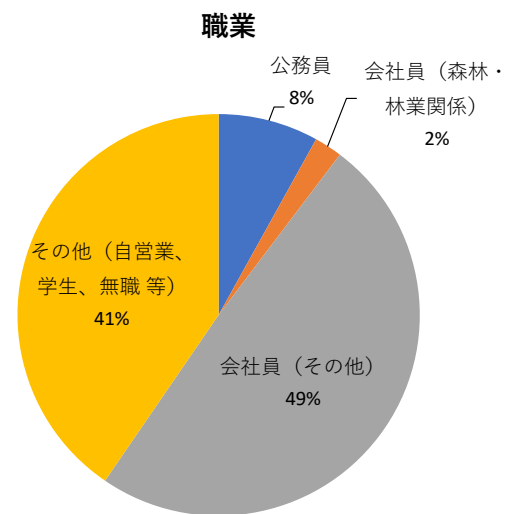
(家庭)

郡山市	171
福島市	8
二本松市	1
伊達市	1
本宮市	2
須賀川市	2
白河市	2
矢祭町	2
喜多方市	3
会津若松市	1
新地町	1
いわき市	5
	<b>199</b>



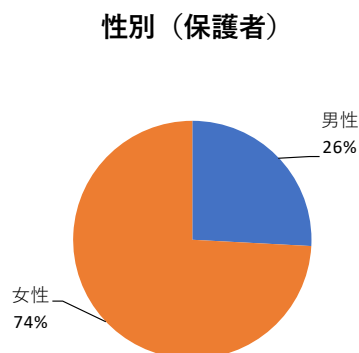
職業（代表保護者）

公務員	43
会社員（森林・林業関係）	12
会社員（その他）	263
その他（自営業、学生、無職等）	216
	<b>534</b>



性別（保護者）

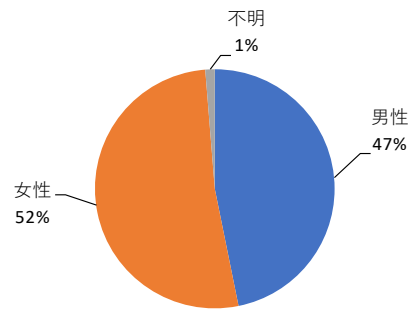
男性	161
女性	462
	<b>623</b>



性別（子ども）

男性	405
女性	449
不明	11
	<b>865</b>

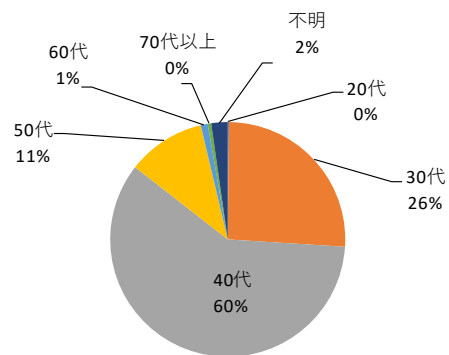
性別（子ども）



年齢層（保護者）

20代	1
30代	161
40代	371
50代	67
60代	6
70代以上	3
不明	14
	<b>623</b>

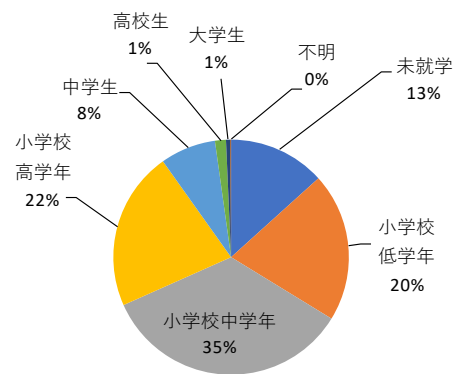
年齢層（保護者）



年齢層（子ども）

未就学	115
小学校低学年	177
小学校中学年	299
小学校高学年	189
中学生	66
高校生	13
大学生	5
不明	1
	<b>865</b>

年齢層（子ども）

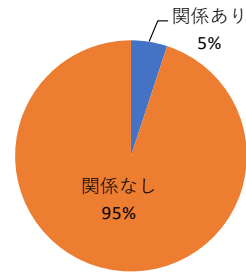


## 福島の林業・地域の再生との関わり

(代表保護者)

関係あり	27
関係なし	507
	<b>534</b>

## 福島の林業・地域の再生との関わり

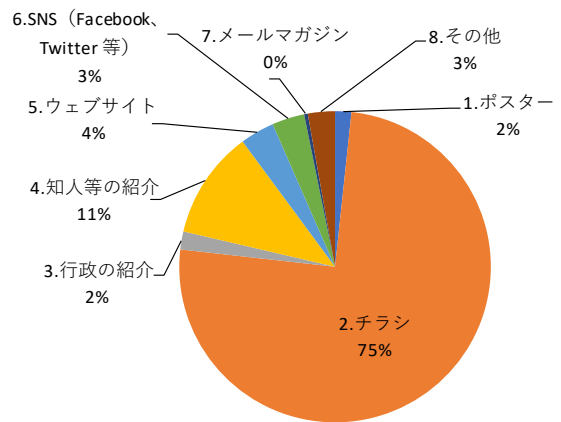


## シンポジウムを知った媒体

(家庭)

1.ポスター	9
2.チラシ	401
3.行政の紹介	10
4.知人等の紹介	60
5.ウェブサイト	19
6.SNS (Facebook、Twitter等)	18
7.メールマガジン	2
8.その他	15
	<b>534</b>

## シンポジウムを知った媒体



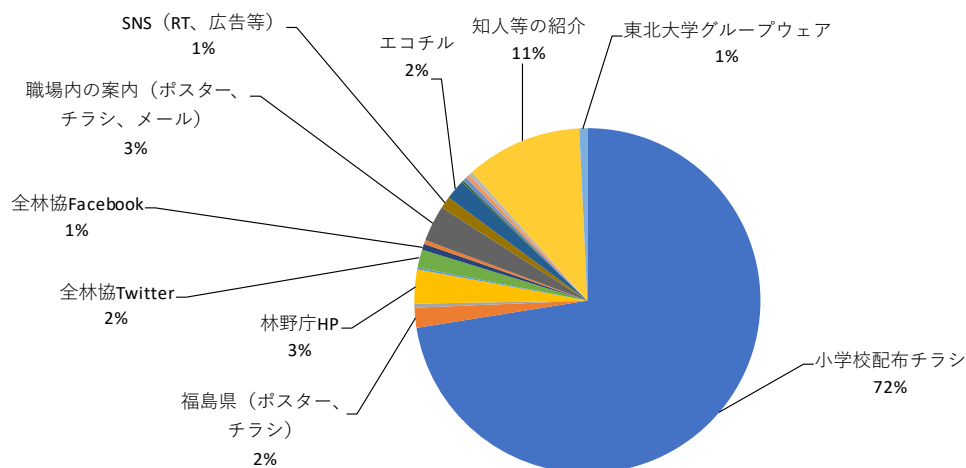
## シンポジウムを知った媒体【具体的な回答】

自由記入欄で具体的な記載があったものについて整理している。

(家庭)

小学校配布チラシ	387	
福島県（ポスター、チラシ）	10	※福島県内、中野区内の役所や森林・林業関係団体等でポスター、チラシを見た
中野区（ポスター、チラシ）	2	
林野庁HP	17	
全林協HP	1	
全林協Twitter	9	
全林協Facebook	3	
林野庁メルマガ	2	
職場内の案内（ポスター、チラシ、メール）	18	
SNS（RT、広告等）	6	
エコチル	10	※子ども環境情報誌
その他ポスター	1	
その他チラシ	2	
その他HP	2	
その他広告	2	
知人等の紹介	58	
東北大学グループウェア	4	
	<b>534</b>	

## シンポジウムを知った媒体【具体的な回答】



## ②プログラム概要

7頁のプログラムに沿い、ライブ配信では林野庁担当官の挨拶後、講義を行った。各講義後にチャットから寄せられた参加者からの質疑に応答し、講義の補足を行った。

ライブ配信後、事後のフォロー動画（木工制作の作品例と手順の説明、2回目以降のナメ

コ栽培キットの栽培方法)を公開した。

概要は以下の通りである。各講義後の質疑応答の概要は次項目に記載する。

### 「福島の森のハカセになろう」

#### 1. 放射線ってどんなもの？ 怖い？ 怖くないの？

##### 【講師】

北 実氏／(大)鳥取大学 研究推進機構研究基盤センター 放射線取扱主任者

##### 【講義内容】

- ・放射性物質と放射線の関係
- ・自然の中の放射線
- ・【実験】教室の中の放射性物質を集め放射線量を測定
- ・体の中に放射線が入ることによる影響  
細胞の中の遺伝子が傷つくが、少しであれば治せる／大量の放射線にあたると危険
- ・放射線の動き
- ・【実験】霧箱の作成・観察

### 「福島の森のハカセになろう」

#### 2. 福島の森、今どうなってるの？

##### 【講師】

篠宮佳樹氏／(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所  
震災復興・放射性物質研究拠点長

小松雅史氏／(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所  
きのこ・森林微生物研究領域 主任研究員

##### 【講義内容】

- ・福島県全体の放射線量の推移
- ・海外や国内他都市と福島県との放射線量の比較
- ・福島県の森林内の放射性物質  
事故直後は枝葉にも捕捉されていた放射性セシウムの大部分は、落葉などにより、土壌表層に移動して集積し留まっている／一部は根から吸収され森林内を循環している
- ・木材中の放射性物質の濃度  
木材中の放射性物質の濃度は、葉・枝・樹皮に比べると低い
- ・【実験】木材・葉・土の放射線量測定実験
- ・キノコ・山菜の放射線量  
検査され安全なものが市場に出荷される／基準値を超えたものは年々減少傾向にある／原木シイタケと野生キノコの出荷制限地域／マツタケの非破壊検査

### 「森と木に親しもう」

##### 【インストラクター】

緑川平隆氏／田人林業研究会

下條真輝氏／田人林業研究会

【内容】

- ・各家庭に2種類ランダムで配付された樹種の特長等の説明  
(スギ、ヒノキ、コナラ、サクラ)
- ・福島県内にある森や木と触れあえる施設  
(フォレストパークあだたら、郡山市高篠山森林公園、湯の岳山荘、田人ワークビレッジ(建築中)、中野区立総合体育館 キリンレモンスポーツセンター、モリノナカノカフェの紹介)

「森のめぐみ なめこ収穫」

【インストラクター】

小松雅史氏／(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所  
きのこ・森林微生物研究領域 主任研究員

【内容】

- ・ナメコの生産現場潜入(動画視聴)
- ・ナメコ、シイタケの育ち方、原木・菌床について説明
- ・シイタケの収穫方法を説明、実践
- ・ナメコの収穫方法の説明
- ・ナメコの収穫体験

「端材であそぼう！ 一端材デザイナー編」【事後動画】

【インストラクター】

榎戸真生氏／cocochi

【内容】

- ・必要な道具、端材クラフト体験キットの中身
- ・作品例 小物ラックの作成手順
- ・カスタマイズ例の紹介
- ・木を使って森を循環させ健康に保つ

「ナメコ栽培キット2回目からの育て方」【事後動画】

【インストラクター】

鈴木清美氏／(有)鈴木農園・(株)まどか菜園 代表取締役

【内容】

- ・2回目以降の育て方
- ・適切な室温・湿度、水やり
- ・2回目以降の収穫に向けて注意点・ポイント
- ・ナメコのおすすめの食べ方
- ・キノコが苦手な方におすすめの食べ方

### ③質疑応答概要

「福島の森のハカセになろう 1. 放射線ってどんなもの？ 怖い？ 怖くないの？」	
質 問	回 答
歯医者でレントゲンを撮ったが放射線が何も見えなかったのはなぜか。	霧箱で見たような放射線の飛んだ跡というのは、普通は見えない。飛行機雲がどんなときでも見えるわけではないのと同じだ。空の高いところを飛んでいる飛行機の飛行機雲は見えるが、紙飛行機を飛ばしても飛行機雲は見えないし、飛行機が着陸する空港の近くで飛行機雲がたくさん飛んでいるということもない。そのように特別な条件にしないと放射線は見えない。またレントゲンで使っている放射線と霧箱で見たこの会場の空気中の放射線というのは、放射線の種類が違う。レントゲンを使っているところに霧箱を持っていくとまた違う見え方をするはずだ。
霧箱で放射線を実際に目で見ると怖く感じた。	初めて放射線を目で見るとなんだかよく分からず、怖い、心配だと思う方もいるかもしれない。しかし先ほど紹介した三朝温泉というのは大昔から湯治などに使われる。温泉に入って病気やけがを治すことに使われる温泉で、健康に良いという伝説がある。三朝温泉を漢字で書くと「三つの朝」だが、なぜそのような名前になったかという説のひとつに、「どんな病気や怪我でも湯治にやってきて、1日目、2日目、3日目には治っている。それくらい体に良い」という伝説があり、その湯を観察に使った。
なぜ放射性物質はまっすぐ飛ぶのか。	投げたボールは、変化球等でない限りまっすぐ飛ぶ。それと同じで、最初に飛び出した方向にまっすぐ進んでいくために、そのように見える。
なぜ霧箱で可視化できるのか。また、なぜ白いのか。	霧箱の中にアルコールの蒸気がたくさん入っている。それをドライアイスで冷やす。そうすると小さな氷の粒ができる。霧のようなもので、家の冷凍庫を開けると白い霧がもやもやと出てくるが、あのような状態になる。その中を放射線が飛んでいくと放射線の通り道にイオンと呼ばれる静電気のようなプラスやマイナスの電気を持ったものができる。そうすると静電気に引っ張られるように、白い氷の粒が通り道に集まることによって白い筋ができあがる。
家にあるものでも放射線は見えるのか。	実験に使った風船も市販の風船だし、ドライアイスと消毒用のアルコールなどを使えば見えると思う。
放射線（放射性物質）は水の中にもあるのか。	放射線の種類にはいろいろなものがあり、水で放射線は遮られやすいが、水の中にも放射性物質はある。



放射線によって癌以外になる病気はあるか。	放射線の影響は色々なものがあるが、癌以外の病気だと例えば目の病気であれば白内障という病気もあるし、ものすごくたくさん放射線があたると火傷のようになっていたりすることもある。
放射性物質はいつ消えるのか。	放射性物質は種類によって減っていくスピードが変わる。半減期と呼ばれているが、短いものだと何秒という間に半分に減っていくのですぐなくなってしまうものもある。東日本大震災のとき問題になった放射性物質の中で、セシウム 137 があるが、それは大体 30 年くらいかかって半分に減っていくので、最初の量が 30 年で半分、次の 30 年でまた半分で 4 分の 1 という感じに、時間がかかってなくなっていく。
<p>「福島森のハカセになろう 2. 福島森、今どうなってるの？」</p>	
質 問	回 答
粘土とはなにか。	一般的に土を大きさで分けると砂、シルト、粘土に分けられ、そのうち一番小さい土の粒が粘土である。国際的な決まりでは、0.002mm 以下を粘土と言っている。（篠宮氏）
放射線は木の成長に影響はないのか。	（原発近くの森林ではマツの形態異常が観察されたが、）私が調査で行った帰還困難区域の森林を見た限りでは、現状の福島森では影響はないと考えられた。木は今までのように養分を吸って育ち続けるので、養分を吸おうと思った時に放射性物質と一緒に少しは吸ってしまう。だからといって形がおかしくなる、成長がとまってしまうなどということは、福島森ではないと考えられる。（篠宮氏）
土の浅いところと深いところでは放射線量は違うのか。	そのとおり違う。土の浅いところに放射性物質はたまっていると説明したが、調査の結果では 0～5 cm の浅いところに放射性物質はたくさんたまっている。それより下の 10cm、20cm、30cm と下がると放射性物質の濃度はだいたい下がっている。なぜかというと、土の浅いところに放射性物質を捕まえる機能がものすごく強くたくさんあり、福島原発の事故で降ってきた放射性物質量はそれに比べるとほんの少しなので、浅いところで放射性物質を全部捕まえることができる。そのために深いところまでいかない。そういう理由で土の浅いところに放射性物質は留まっている。（篠宮氏）
木でできた家には放射線は含まれているのか。	木の中にも放射性物質は含まれているが、北先生の講義で話されたとおり、量が問題になる。福島県で計算をしたところ、福島県内で育った木で作った住宅に住んでもその影響というのは無視できるくらい小さいということが分かっている。福島県の木で作られた家に住んでも問題ない。（小松氏）

どんぐりは触っても大丈夫か。	全く問題ない、大丈夫だ。(小松氏)
原木に傷をつけて菌を待つ栽培方法は、どれくらいの確率でキノコができるのか。	私もやったことがないので分からないが、シイタケの菌が空中に飛んでいる時期というのはおそらくかなり限られていると思うので、そういう時期をうまく逃さずに行うという昔の人たちの勘や経験に基づいたテクニックが効いていると思う。(小松氏)
キノコの線量検査は全てのキノコでしているのか、それとも一部か。	全てのキノコを検査しているわけではない。そこで基準値を超えてしまうものがあると出荷できないということになっている。ただし先ほど紹介したマツタケの非破壊検査については全て検査し、検査をクリアしたものだけを出荷するというシステムになっている。(小松氏)
野生のキノコは食べられるのか。	野生で食べられるキノコは数百種類と言われている。毒キノコではないが食べても美味しくなく「不適」と呼ばれるようなキノコもかなりの数がある。(小松氏)
福島県のキノコが市場に出せないのはなぜか。	土壌中に放射性物質が移行している。それをキノコの菌は効率よく吸収してしまうメカニズムがあり、そのせいで濃度が高くなり出荷できない。(小松氏)
先生が一番美味しいと思うキノコはなにか。	正直子どもの頃はキノコがあまり好きではなかったが、大人になるとキノコが好きになった。先日シイタケステーキという分厚いシイタケをいただいて、非常に美味しかった。(小松氏)
ナメコ栽培キットは何回くらい収穫できるか。	スタッフで去年7回収穫できたと豪語している者がいた。ぜひみなさんも複数回挑戦していただければと思う。(小松氏)
「森と木に親しもう」	
<b>質 問</b>	<b>回 答</b>
送られてきた木の端材の樹種はなにか。	スギの木だ。匂いをかいでみて「これがスギの香りなんだ」と感じてほしい。(緑川氏)
木の家は良い匂いか。	・良い匂いだ。私は麻痺して分からなくなってしまったが、妻は木の家に入ったり家具屋に行くと「木の匂いがするね」と言っている。(緑川氏) ・今、家を建てているが、その中でも木の匂いが充満しており、良い匂いがする(下條氏)
動画の中に出てきた機械はなにか。	今は売っていないが、リョウシン号という林業機械だ。すごく有能な機械で年齢的にはおじいちゃんだが頑張っている。(緑川氏)
4種類の木の中で一番値段の高い木はなにか。	高さを求めたらサクラ、ヒノキだ。どちらがということはなく、両方高い木だ。しかし4種類全て高いと言ってよい。スギ

	の木も値段の高い木があり、びっくりするような値段のものもある。(緑川氏)
スギの花粉症だと林業に携わるのは大変か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実を言うと私も花粉症だ。その中で20年以上やっているので慣れなのかなと思っている。そんなに花粉症がひどくない方なのかもしれない。(緑川氏)</li> <li>・私は花粉症ではないので大丈夫だ。これから花粉症になるかもしれないと思っている。(下條氏)</li> </ul>
木によって匂いは違うのか。	花の匂いと同じように木によって違う匂いがする。サクラは伐ったばかりの木は鮮烈な匂いがする。機会があればかいでみてほしい。(緑川氏)
4種類の木の硬さは違うか。	違う。爪を立てて触ってみると違いが分かるので触ってみてほしい。(下條氏)

#### ④記録写真



主催者挨拶 (動画)

林野庁 研究指導課 森林除染技術開発企画班  
課長補佐  
西尾悠佑



「福島森のハカセになろう  
放射線ってどんなもの？」

鳥取大学研究推進機構研究基盤センター  
北 実 氏



「福島森のハカセになろう  
福島森、今どうなってるの？」

(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所  
篠宮佳樹 氏



「福島森のハカセになろう  
福島森、今どうなってるの？」  
「森めぐみ なめこ収穫」

(国研)森林研究・整備機構 森林総合研究所  
小松雅史 氏



「森と木に親しもう」  
田人林業研究会  
緑川平隆 氏



「森と木に親しもう」  
田人林業研究会  
下條真輝 氏



司会  
2020 ミス日本みどりの女神  
井戸川 百花 氏



配信の様子  
(演者全体)



配信の様子  
(放射線ってどんなもの?)



配信の様子  
(福島森、今どうなってるの?)



配信の様子  
(福島森、今どうなってるの?)



配信の様子  
(森と木に親しもう)



配信の様子  
(森のめぐみ なめこ収穫)



配信の様子  
(会場全体)



動画

(震災後 10 年目の、福島の森、その恵み)



スライド (配付資料)

(福島の森、今どうなってるの? :  
イラストやアイコンを多用した  
平易な表現)

### 3) 参加者アンケート集計結果

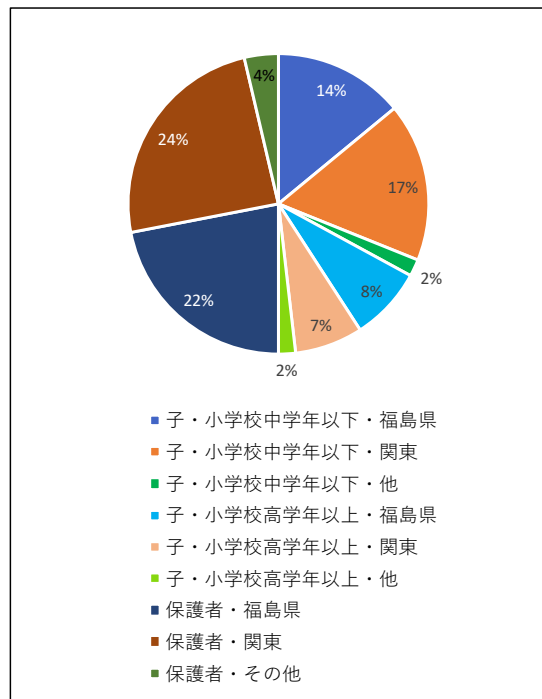
アンケートは1家庭につき保護者1名、子ども1名がWEBから回答する形式で実施した。過年度のアンケート結果から、小学校中学年以下の満足度(理解度)は個人差が大きいため、高学年以上と以下で分けし、家庭内で子どもの参加が複数ある場合は、小学校高学年に近い年齢の子どもに回答してもらった。集計に当たっては、参加者の興味や関心を調べることで、シンポジウムのあり方やイベント告知等の効果的な広報を検討することを目的とした。

なおアンケート項目は、ライブ配信の内容と関連の深い事後配信動画についても設問した。

#### ○回答者数及び属性

地域	区分	回答数	地域	区分	回答数
福島県	未就学	2	関東 (東京都、 神奈川県、 埼玉県、 千葉県、 茨城県、 栃木県)	未就学	0
	小学校低学年	13		小学校低学年	24
	小学校中学年	31		小学校中学年	32
	小学校高学年	26		小学校高学年	22
	中学生以上	0		中学生以上	2
	保護者	72		保護者	80

地域	区分	回答数
その他	未就学	0
	小学校低学年	3
	小学校中学年	3
	小学校高学年	5
	中学生以上	1
	保護者	12



○回収率 33% (164/500 家庭)

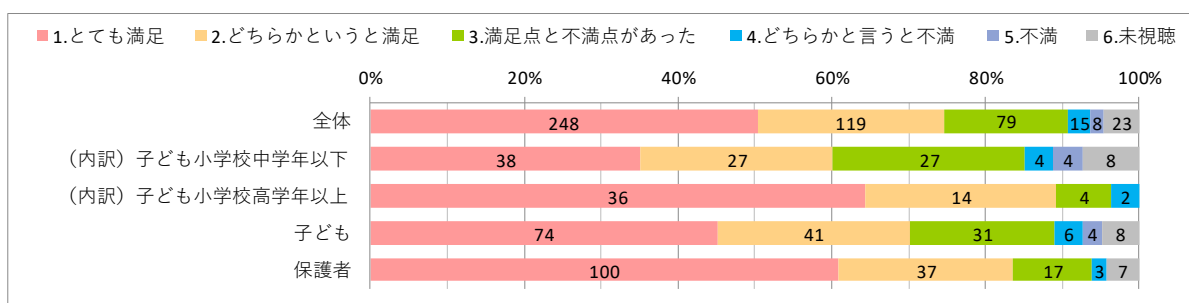
○集計結果

シンポジウムの感想を教えてください

①放射線ってどんなもの？

<年代別>

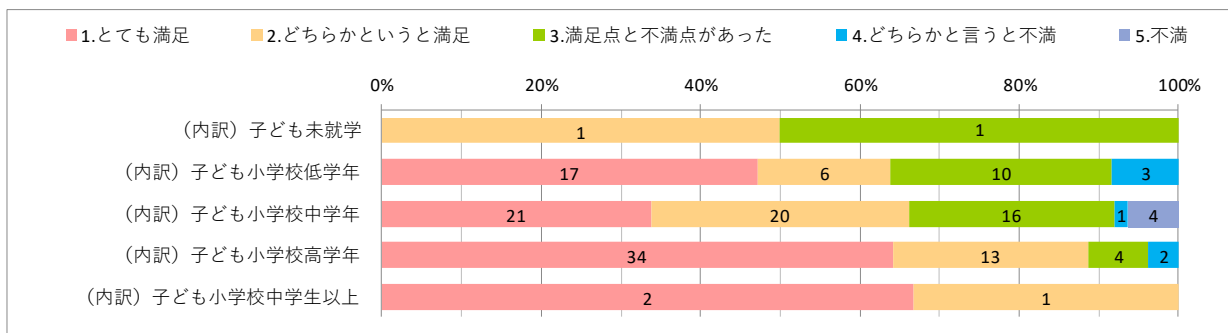
回答者属性▼	高		← →		低		回答数
	1.とても満足	2.どちらかという満足	3.満足点と不満点があった	4.どちらかと言うと不満	5.不満	6.未視聴	
全体	248	119	79	15	8	23	492
(内訳) 子ども小学校中学年以下	38	27	27	4	4	8	108
(内訳) 子ども小学校高学年以上	36	14	4	2	0	0	56
子ども	74	41	31	6	4	8	164
保護者	100	37	17	3	0	7	164



※学年別満足度（詳細な満足度を考察するため、座学に限り掲載）

※「6.未視聴」は除く	1.とても満足	2.どちらかという満足	3.満足点と不満点があった	4.どちらかと言うと不満	5.不満	回答数
(内訳) 子ども未就学	0	1	1	0	0	2
(内訳) 子ども小学校低学年	17	6	10	3	0	36
(内訳) 子ども小学校中学年	21	20	16	1	4	62
(内訳) 子ども小学校高学年	34	13	4	2	0	53
(内訳) 子ども小学校中学生以上	2	1	0	0	0	3
合計	74	41	31	6	4	156

1・2合計割合		
	1のみ	2のみ
50%	0%	50%
64%	47%	17%
66%	34%	32%
89%	64%	25%
100%	67%	33%



▼主な評価の高いコメント

【子ども】

- ・ 怖いものではない、どこにでもあるものと知れた
- ・ 実験が分かりやすかった
- ・ 放射線という言葉は知っていたけど、どういうものか分からなかったから知れてよかった
- ・ 学校やコミュたんで習ったことがあり、復習できた

【保護者】

- ・ 分かりやすい説明で、子どもも興味を持って見ている
- ・ 放射線を実際に見られたのがよかった
- ・ 親でもなんとなくしか知らなかった放射線とは何かということ、自分が子どもに説明できるくらい分かりやすく知ることができた

▼主な評価の低いコメント

【子ども】

- ・ 内容が難しかった／途中で飽きた（小学校中学年、低学年）

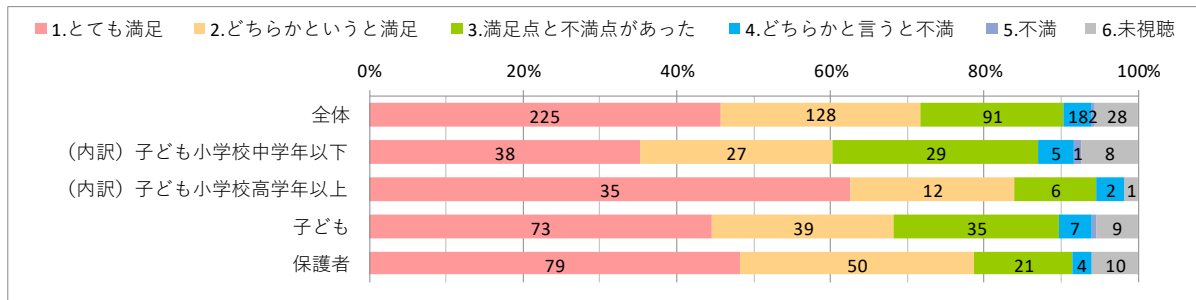
【保護者】

- ・ 子どもには内容が難しかった（小学校中学年、低学年）
- ・ 子どもが途中で飽きてしまった（小学校高学年）

②福島の森、今どうなってるの？

<年代別>

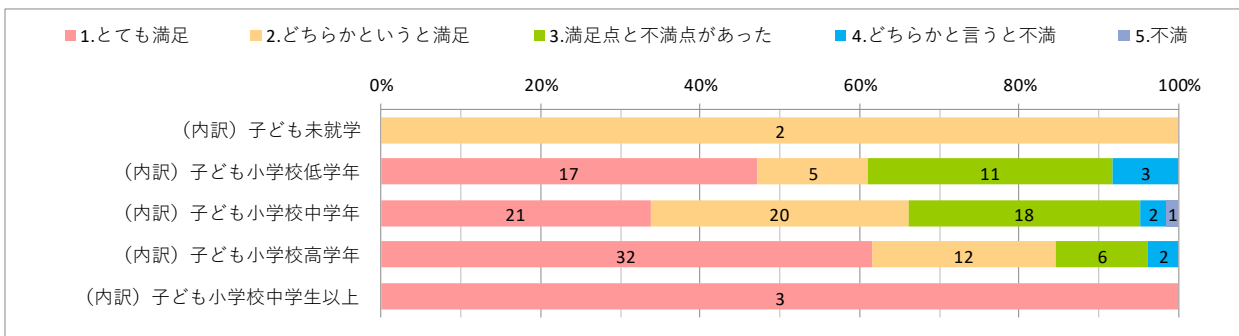
回答者属性▼	高		← →		低		回答数
	1.とても満足	2.どちらかという満足	3.満足点と不満点があった	4.どちらかと言うと不満	5.不満	6.未視聴	
全体	225	128	91	18	2	28	492
(内訳) 子ども小学校中学年以下	38	27	29	5	1	8	108
(内訳) 子ども小学校高学年以上	35	12	6	2	0	1	56
子ども	73	39	35	7	1	9	164
保護者	79	50	21	4	0	10	164



※学年別満足度（詳細な満足度を考察するため、座学に限り掲載）

※「6.未視聴」は除く	1.とても満足	2.どちらかという満足	3.満足点と不満点があった	4.どちらかと言うと不満	5.不満	回答数
(内訳) 子ども未就学	0	2	0	0	0	2
(内訳) 子ども小学校低学年	17	5	11	3	0	36
(内訳) 子ども小学校中学年	21	20	18	2	1	62
(内訳) 子ども小学校高学年	32	12	6	2	0	52
(内訳) 子ども小学校中学生以上	3	0	0	0	0	3
合計	73	39	35	7	1	155

	1・2合計割合	
	1のみ	2のみ
(内訳) 子ども未就学	100%	0%
(内訳) 子ども小学校低学年	61%	14%
(内訳) 子ども小学校中学年	66%	32%
(内訳) 子ども小学校高学年	85%	23%
(内訳) 子ども小学校中学生以上	100%	0%





▼主な評価の高いコメント

【子ども】

- ・ 森の中の放射性物質のことがよく分かった
- ・ 図があって分かりやすかった
- ・ 放射線量が下がっている事が分かりよかった
- ・ 土の浅い所に放射性物質がたくさん留まっていることにびっくりした

【保護者】

- ・ 現状を把握できたことが安心につながった。今後も継続的に情報発信が必要に思う
- ・ まだ野生キノコを出荷できない地域があるなど、震災・原発事故の影響が人々の暮らしに直接影響を及ぼしていることを悲しく思った。表土に放射線が蓄積される理由、材には放射線が蓄積されにくいという事実を知ることができ、勉強になった
- ・ 全く知る機会がなかったので興味を持った

▼主な評価の低いコメント

【子ども】

- ・ 内容が難しかった／途中で飽きた（小学校中学年、低学年）

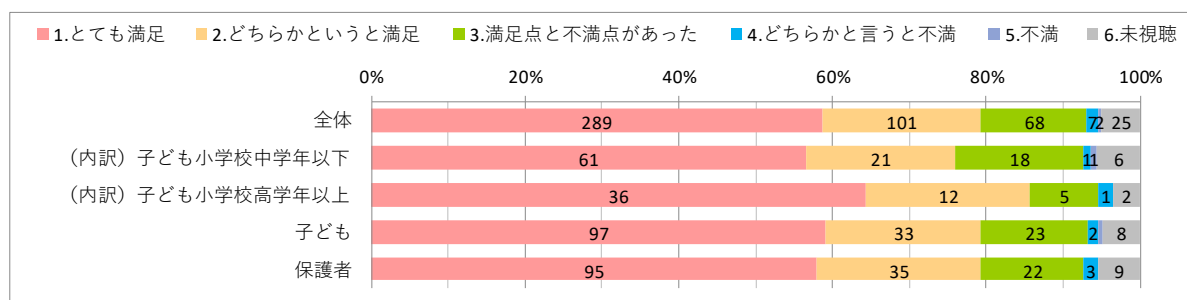
【保護者】

- ・ 長くて途中で飽きてしまった

③森と木に親しもう

<年代別>

回答者属性▼	高		← →		低		回答数
	1.とても満足	2.どちらかという満足	3.満足点と不満点があった	4.どちらかと言うと不満	5.不満	6.未視聴	
	全体	289	101	68	7	2	
(内訳) 子ども小学校中学年以下	61	21	18	1	1	6	108
(内訳) 子ども小学校高学年以上	36	12	5	1	0	2	56
子ども	97	33	23	2	1	8	164
保護者	95	35	22	3	0	9	164



▼主な評価の高いコメント

【子ども】

- ・ 樹種の特長を知ることができた
- ・ 色々な木の名前を知れて興味を持った
- ・ 送られてきた木の香りが好きだ
- ・ 芯があることや、年輪、木の皮の剥がれ方や硬さの違いが興味深かった
- ・ 届いた2種類の木の香りが違っていることが特に興味深かった
- ・ 説明を聞いて、届いた木の輪切りの樹種がきちんと分かった
- ・ 端材でいろいろ作ったり、積み木にして遊んだり楽しかった
- ・ 参加した友達と一緒にクラフトを作った。自然に触れ合えてよかった

【保護者】

- ・ 木の輪切りを実際に見たり触ったりしながら説明を聞き、森を近くに感じることができた
- ・ 送られてきた木の良い匂いを子どもが体験できて喜んでいました
- ・ 樹種によって香りや年輪が違うことを感じられ、子どもが楽しそうだった
- ・ 木の輪切りを見て親子で「これはどうか」など話しながら参加でき楽しかった
- ・ 改めて自然の面白さ、不思議さに気づいた。子どもも真剣に見ていた
- ・ 講師の森と木を愛する気持ちが伝わってきた。木の見分け方の説明も分かりやすかった。山に入ったら色々な木を見て、もっと木のことを知りたいと思う
- ・ 外遊びが好きな我が家の子どもたちが喜びそうな施設が紹介され、ありがたかった

▼主な評価の低いコメント

【子ども】

- ・ 飽きてしまった（小学校高学年）

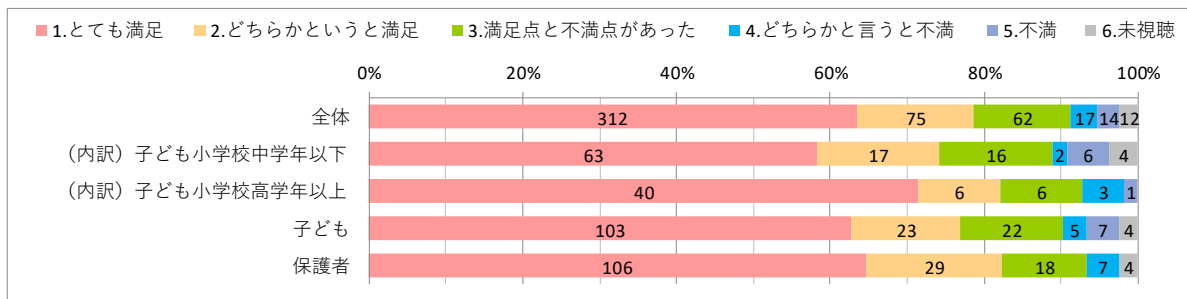
【保護者】

- ・ 木の輪切りの判別が難しかった
- ・ 話が続いて子どもが飽きてきてしまった

④森のめぐみ なめこ収穫

<年代別>

回答者属性▼	高		← →		低		回答数
	1.とても満足	2.どちらかという満足	3.満足点と不満点があった	4.どちらかと言うと不満	5.不満	6.未視聴	
全体	312	75	62	17	14	12	492
(内訳) 子ども小学校中学年以下	63	17	16	2	6	4	108
(内訳) 子ども小学校高学年以上	40	6	6	3	1	0	56
子ども	103	23	22	5	7	4	164
保護者	106	29	18	7	0	4	164



▼主な評価の高いコメント

【子ども】

- ・ ナメコを毎日観察するのが楽しかった
- ・ 自分の家でもナメコが作れるなんて思わず、大きくなっていくのが面白かった
- ・ ナメコがどうやっできるのか知ることができてうれしかった。とっても美味しく作れた
- ・ 自分の育てたナメコが家族に喜んでもらえた
- ・ 収穫時は達成感があった。2回目以降も栽培を頑張る
- ・ キノコが苦手だが、ちっちゃいナメコはとてもかわいい

【保護者】

- ・ キノコの成長を子どもと一緒に楽しめて食育につながった
- ・ 「苦手なキノコも食べる！」と食育にとてもよかった
- ・ 森とキノコの関係が理解できた。シイタケ嫌いの子もが興味を示したので早速料理してみるつもりだ
- ・ 実際に育てて体験できたことで楽しみながら学べた
- ・ 家でナメコを栽培し食べることまでできたので、一番興味を持って視聴できた

▼主な評価の低いコメント

【子ども】

- ・ ナメコが小さくて配信中と一緒に収穫ができなかった

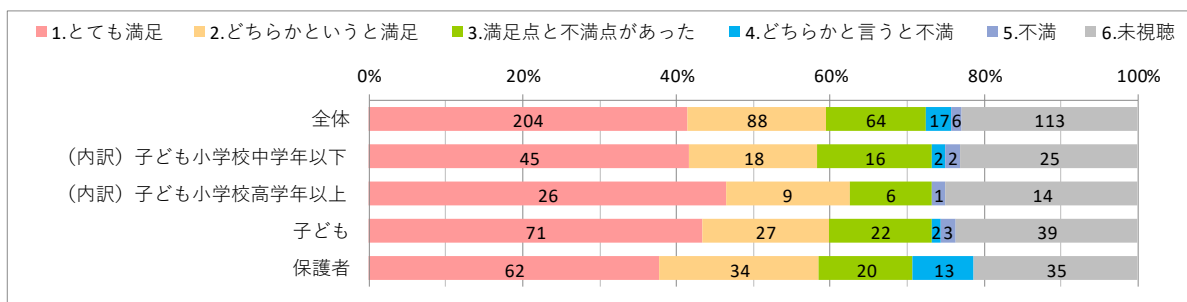
【保護者】

- ・ まだ収穫できる状態ではなく、一緒にできなかったのが残念

⑤【動画】 端材で遊ぼう 一端材デザイナー編

<年代別>

回答者属性▼	高		← →		低		回答数
	1.とても満足	2.どちらかという満足	3.満足点と不満点があった	4.どちらかと言うと不満	5.不満	6.未視聴	
	全体	204	88	64	17	6	
(内訳) 子ども小学校中学年以下	45	18	16	2	2	25	108
(内訳) 子ども小学校高学年以上	26	9	6	0	1	14	56
子ども	71	27	22	2	3	39	164
保護者	62	34	20	13	0	35	164



▼主な評価の高いコメント

【子ども】

- ・ いろんなクラフトのアイデアを知れたし、興味がわいた
- ・ 何を作ろうか考えワクワクして楽しかった
- ・ ヤスリかけたり、木を触るのが楽しかった

【保護者】

- ・ 子どもがとても喜んで製作していたのでよかった
- ・ 子どもが久しぶりにゲーム以外に夢中になっていた。家で木工工作の機会がなかったのでよかった。創意工夫している姿も見られた
- ・ 動画を見たら子どもが早速端材のヤスリ作業を始めたので、興味を持つきっかけになってよかった
- ・ いろいろな使い方を知ることができて楽しかった。子どもの想像力も膨らんだようだ
- ・ 木でこんなものが作れるんだとワクワクしながら見て、実際に作って木の良さを知ったり工作の楽しみを知れた

▼主な評価の低いコメント

【子ども】

- ・ 何を作ったらいいか分からない。自由にではなくみんなで一緒のものを作りたいかった

【保護者】

- ・ ライブ配信の中で一緒に作りたいかった
- ・ 端材がかさばる。できるものが決まっていて最小限の量の方がありがたい

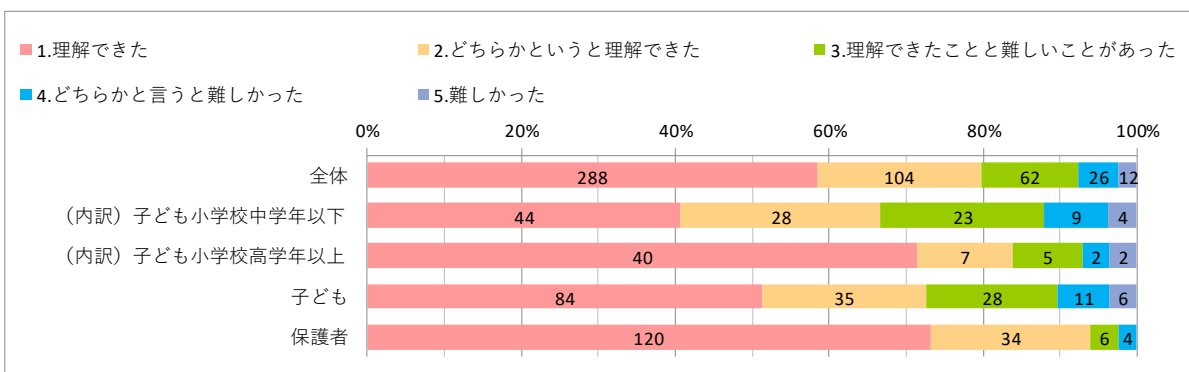
⑥福島の森の中の放射線量はだんだんと下がっていることや、キノコは今でもお店に出せない場所があるなどのお話は理解できましたか

<年代別>

高 ← → 低  
 1.理解できた 2.どちらかという理解できた 3.理解できたことと難しいことがあった 4.どちらかと言うと難しく 5.難しかった

回答者属性▼

	高	←	→	低	回答数
全体	288	104	62	26	492
(内訳) 子ども小学校中学年以下	44	28	23	9	108
(内訳) 子ども小学校高学年以上	40	7	5	2	56
子ども	84	35	28	11	164
保護者	120	34	6	4	164



▼主な評価の高いコメント

【子ども】

- ・ 事故の後すぐは放射線量が高かったけど、今は下がっていると知って安心した
- ・ 早く福島の全ての食べ物がお店に出せるようになるとよいなと思う
- ・ 場所によってお店に出せないキノコがあることを初めて知った
- ・ 家族で話しながら聞いていたので理解が進んだ

【保護者】

- ・ カラーの図で放射線量の違いなどが分かりやすかった
- ・ 解説と資料が分かりやすかった。冊子とスライド両方あるのがよかった
- ・ 現状が理解でき安心した
- ・ 正しい知識や情報が得られた
- ・ 改めて最新の情報や状況が理解できた
- ・ 専門家の話を聞くことで、どうしてそうなのかという理由が理解できとても勉強になった
- ・ 福島の放射線量のことをどこかで不安に思いながら最近では報道されない内容だったが、実際に放射線量が減っている現状について理解を深めることができた

▼主な評価の低いコメント

【子ども】

- ・ 少し難しかった（小学校高学年）
- ・ 放射性物質についてよく分からないところがあった（小学校低学年）

【保護者】

- ・ 今後の動向など、まだまだはっきりしておらず難しく思えた

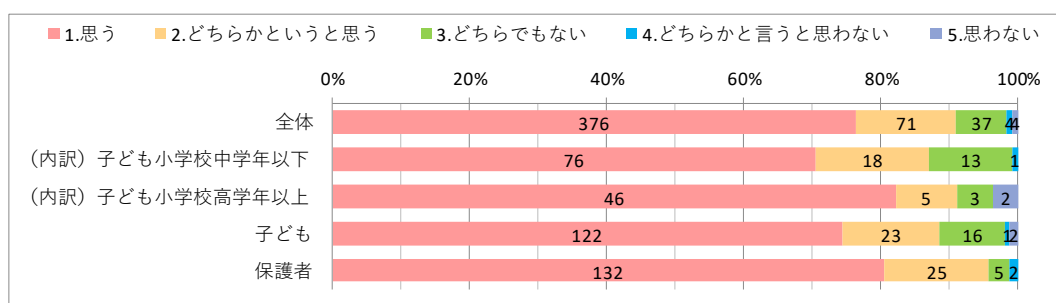
⑦福島の食べ物（キノコなど）を食べたい、森に遊びに行ってみたいなど、福島県を応援する気持ちになりましたか

<年代別>

高 ← → 低  
 1.思う 2.どちらかというと思う 3.どちらでもない 4.どちらかと思うと思わない 5.思わない

回答者属性▼

	高	←	→	低	回答数
全体	376	71	37	4	492
(内訳) 子ども小学校中学年以下	76	18	13	1	108
(内訳) 子ども小学校高学年以上	46	5	3	0	56
子ども	122	23	16	1	164
保護者	132	25	5	2	164



#### 【子ども】

- ・ 興味がわいたので、森林散策をしてみたい
- ・ 今回教えてもらったことを森に行って観察したい
- ・ 福島のキノコを食べたり、森を大事にしたいと思った。いっぱい森で遊びたい
- ・ 福島の美味しいものを食べようと思った
- ・ 買い物に行ったら福島のものを見つけるのが楽しみになった
- ・ 果物がとても美味しいし森も近くにあつていいところなので福島県が好きだ。応援する
- ・ 福島県をこれからもっと盛り上げていきたい
- ・ 福島県に住んでおり祖父母が作物を育てているので、食べられないと思われるのは悲しい

#### 【保護者】

- ・ 福島を身近に感じられた
- ・ 正しく知れば怖くないと思う
- ・ 放射線の量に気をつけながら、怖がりすぎないように付き合っていけそうだった
- ・ これからも忘れてはならない問題だ。地域愛がある
- ・ 震災当時は福島県は今後居住地として難しいと考えていた。しかし放射線量が減っていること、森林保護を通じて多くの方々が活動しているお話を聞く中で、自然災害の多い日本でお互いに助け合って知恵を出しながら、明るい未来を模索すべきだと考えを新たにしました
- ・ 風評被害などで大変な時期もあったと思うが、しっかりと管理され安心安全な商品のみが流通していることを改めて知れた
- ・ 今までにも福島を訪れたりしており、これからも行きたいと思っている
- ・ 安心して美味しいものや自然に触れられる環境なので遊びに行きたいと思った
- ・ 今までも福島県産を避けてはいなかったが、今後も安心して食べていこうと思う
- ・ 売り場に出ているものは全く問題のないものなのだとより理解した
- ・ 森林には発見がたくさんあり、子どもにはいろいろな発見をしてもらいたい
- ・ 丁寧にいろいろな方々の面白い授業をしてもらえ、ためになったし、自然のことも知り、キノコの美味しさも分かり、本当に応援したくなった
- ・ キノコ収穫やクラフト制作を通して、子どもの興味に繋がったようだ。休日はゲーム中心だったが、外遊びに行きたがるようになった。また一緒に買い物にいくとキノコの種類を見たり、福島県産のものを「これ福島のだから買おう！」と言うようになった。買う→応援になるという理解をしているようだ
- ・ 絶対福島へ行ってみたいね、スーパーで福島の食べ物を探したいねと子どもと話した
- ・ 緑豊かな福島を満喫し、自然豊かな環境で生活できることを子どもたちにも伝えていきたい。キノコが苦手な子どもたちが、今回興味を持ってくれたことで苦手意識は少なくなったと思う
- ・ 素敵なキャンプ場などを紹介されて行ってみたいと思った
- ・ 福島の森が元気になってきているところをこの目で見てみたくなった
- ・ 森の良さを改めて感じた。子どもたちにも森で遊ぶ機会を作ってあげたい
- ・ もっと応援できるよい方法を知りたい
- ・ 子どもにぜひ福島の森林体験をさせたいので、企画をお願いしたい

#### ▼主な評価の低いコメント

##### 【子ども】

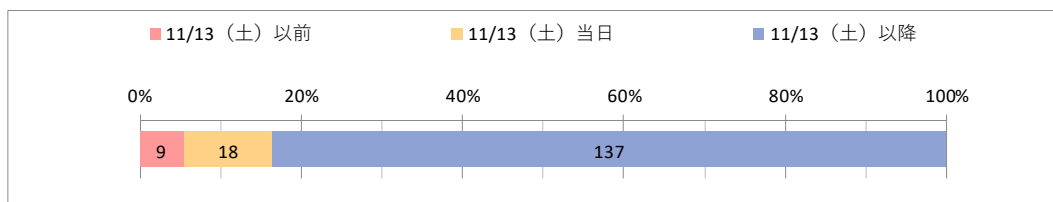
- ・ キノコが苦手なので食べて応援することができない

##### 【保護者】

該当なし

ナメコ栽培キットの収穫タイミングはいつでしたか？

11/13 (土) 以前	11/13 (土) 当日	11/13 (土) 以降	回答数
9	18	137	164



⑧その他、感想などを自由に書いてください

【子ども】

- ・ いろいろな福島のことを知れて楽しかった
- ・ 福島が身近に感じて行きたくなった
- ・ オンラインだったが、いろいろと目で見て、触って、育てて、楽しかった
- ・ またやってほしいし、参加したい
- ・ 学校で放射線のことは習ったが、今日のはもっと分かりやすく楽しかった
- ・ 森のことや木のが分かってすごく勉強になった
- ・ 特に木の話とキノコの話が面白かった
- ・ 山で育てた木を伐り出すときに、あんなに大きな機械を使っていることに驚いた
- ・ 端材クラフトの製作中、作り方の動画がYouTubeで何回も見られるのでよかった
- ・ 元々工作が好きで、今回端材を追加で買ってもらった
- ・ 初めは難しいお話だったが、チャットもあり楽しく勉強することができた
- ・ キノコがあまり好きではないが頑張って食べようと思う。チャットの入力が楽しく、自分のコメントが読まれるとうれしい
- ・ キノコが可愛くて大好きになった
- ・ キノコが嫌いだったけど育つのが楽しみで毎日お水を撫でながらあげた。ナメコがコリコリしていて今まで食べたのと全然違って最高に美味しくて、お味噌汁をあっという間に飲んだ。2回目を栽培しており楽しみだ
- ・ 今度は他のキノコも育ててみたいと思った
- ・ 効果音など、みなさんがすごく盛り上げてくださって楽しめた
- ・ 途中で飽きてしまうかなと思っていたが、最後まで楽しく視聴できた

【保護者】

- ・ 全体的にアットホームで肩肘張らず楽しくライブ配信を見ることができた。効果音やかぶり物等、子どもを飽きさせない工夫があちこちで見受けられ、優しさを感じた
- ・ 子どもと一緒に参加できるリモート型で、休日に家族でよい時間を持てた
- ・ 子どもにとっては未知への足がかり、大人にとっては知識の再確認で有意義だった。長時間だったので、低学年の児童では途中で飽きてしまいがちだが、各種効果やコメントへの回答で興味をひいていただいた。来年もあれば参加したい
- ・ 家庭では学べないことを今回学ばせていただき、親子ともども楽しんで勉強になった
- ・ とても楽しい体験をさせていただき、親子で勉強になったし福島について話すキッカケにもなりよかった
- ・ 今回話を聞いて、福島の方が一生懸命復興に向けて頑張られていることが伝わってきた。参加できてよかった
- ・ ライブ配信の授業内容を冊子を見ながら子どもと視聴することで、とても理解が深まった
- ・ 東京にいながらありのままの自然に触れ合える機会をくださり、感謝している。東日本大震災を知らない子どもにも、災害について話をする機会となった
- ・ 震災の記憶が少しずつ薄れてきていたので、今の福島県のこと（放射線、森、キノコ等々）を知ること、考えることができてよかった。応援している
- ・ よい経験になった。福島を身近に感じることができた

- ・子どもに放射線についてきちんと教える機会を逸していたので、よい機会になった。チャットで他参加者の意見を聞けるのもリアルイベントでは周囲の人に話しかけたりしにくいのでよかった。無料でこんなにいいの？と思える豪華なイベントで、コロナ禍のステイホーム中にとっても楽しめた
- ・学校の授業では得られない知識や体験ができ感謝している。自分たちで収穫したナメコで作った味噌汁が大人気だ
- ・自宅に届いた木が、なんの木なのか子どもと話し合えたのが楽しかった。実際にそれぞれの木の軟らかさや、香りの違いが体感できてよかった
- ・端材キットやナメコ収穫がととてもよかった。ナメコがニョキニョキ大きくなる様子に子どもたちも驚いていて、良い体験になった。来年もぜひ参加したい
- ・ナメコを自宅で栽培できるとは思っていなかったし、親子で毎日ナメコの成長を観察して、美味しくいただくことができ、ナメコ栽培が毎日の生活の中で子どもと一緒にできたことが楽しかったし、キノコ嫌いな子どもも食べてくれるきっかけになった
- ・最後に南中野区民活動センターからの配信だと分かってよかった。よく遊びに行く公園のそばにあり、何度か利用したことがある施設だ。ここまでわざわざ来てくださったのだと思うと、福島への親しみが強まった。また栽培方法に関する、生産者の方の質問対応に頭が下がる思いだった。大勢から問い合わせがきて本当に大変だったと思うが、丁寧・迅速な回答をいただき、無事に収穫できた。元々キノコ類が苦手で、1回目は「少しでいい」と言っていた子どもが、今では何も言わず食べるようになり、驚いている
- ・他県在住だが、福島やその近辺の関東地域の放射線の影響を再確認して「正しく恐れよう」との思いだ
- ・もっと福島県の森林のことを知りたくなった
- ・子どもが真剣に見ていた
- ・子どもが配信までの間も、配信中もとても楽しそうだった
- ・よく考えられた内容で、またぜひ参加したいと思えるイベントだった
- ・話で聞くよりも、実際にやってみるものの大切さ、感動と楽しさを親子共にたくさん感じられた。またやってみないと親子共に思っている
- ・子どもが低学年のため、きちんと視聴できない時間もあったが、アンケートを入力しながら話をすると「だいたい分かる」と言っており、勉強になったようだ
- ・参加した子どもたちが学校でナメコの成長状況を報告し合っているようで、申込みに関わらなかった親子が残念がっている。また企画していただくと喜ばれると思う
- ・よい森づくりをするお手伝いをするために、具体的に出来ることを教えてほしい
- ・オンラインで気軽に楽しく参加できた。チャット機能は気軽な反面、場にそぐわない発言等も見られたので、仕方ないとは思いつつ子ども向けのイベントでの課題とも感じた
- ・印象としては、全体的に堅苦しい感じを受けた。プロの司会者が進行をして、それに合わせて先生たちの話や、動画の展開をすればもっと良かったと思う。子どもが見て学ぶ動画なので、もっと明るく元気に楽しそうな空気感がほしかった
- ・編集のないライブ配信だったため子どもの食いつきがいまいちで親もあまり集中できなかった。Zoomなど他の参加者も見えるような参加方法がよかったかもしれない
- ・ライブ配信時にナメコが収穫できず残念だった

#### 4)参加者アンケート集計考察

アンケートは、今後、シンポジウム等の普及啓発手法の検討、運営等に役立てることを目的に実施した。主に各コマ（以降、講義や体験の単位として使用）の満足度等に対する評価について、集計結果の考察を行った。

回答者全体の傾向に加え、子どもと保護者に分け、さらに昨年度同様子どもは小学校中学年以下と小学校高学年以上の年代別に分けて傾向の違いがみえるものについて結果を考察した。

参考までに、回答者の主な属性（地域）は、【子ども】小学校中学年（福島県 19%、関東圏 20%、その他 2%）、小学校高学年（福島県 16%、関東圏 13%、その他 3%）、【保護者】福島県 44%、関東圏 49%、その他 7%となった。



満足度及び理解度の評価は、1（高）～5（低）の5段階評価に「未視聴」を加えて実施し、主として1（とても満足／理解できた）、2（どちらかという満足／どちらかという理解できた）の割合について考察を行った。

○ 1 または 2 と回答した割合

	1・2合計				1				2			
	全体	(内訳) 子ども小 学校中学 年以下	(内訳) 子ども小 学校高学 年以上	保護者	全体	(内訳) 子ども小 学校中学 年以下	(内訳) 子ども小 学校高学 年以上	保護者	全体	(内訳) 子ども小 学校中学 年以下	(内訳) 子ども小 学校高学 年以上	保護者
①放射線ってどんなもの？	77%	60%	89%	84%	53%	35%	64%	61%	24%	25%	25%	23%
②福島の森、今どうなってるの？	73%	60%	84%	79%	46%	35%	63%	48%	27%	25%	21%	30%
③森と木に親しもう	79%	76%	86%	79%	59%	56%	64%	58%	21%	19%	21%	21%
④森のめぐみ なめこ収穫	80%	74%	82%	82%	64%	58%	71%	65%	16%	16%	11%	18%
⑤【動画】端材で遊ぼう 一端材デザイナー編	59%	58%	63%	59%	41%	42%	46%	38%	19%	17%	16%	21%

①シンポジウムの内容に対する満足度

ア 回答者全体の傾向

1 または 2 と回答した割合をみると、73～80%と満足度は全体的に高かった。しかし、動画を視聴し各自が後日クラフト制作を行う「端材であそぼう！」は59%と若干低かった。

「放射線ってどんなもの？」:

「実験が分かりやすかった（子）」「放射線を実際に見られたのがよかった（保護者）」との意見にあるように、実験によって理解が促進され、子どもからも保護者からも放射線に関する基礎知識が分かりやすく得られたと高く評価された。

一方、小学校低学年～中学年の参加者から「内容が難しかった」との意見があった。

「福島の森、今どうなってるの？」:

「森の中の放射性物質のことがよく分かった（子）」「土の浅い所に放射性物質がたくさん留まっていることにびっくりした（子）」「図があって分かりやすかった（子）」との意見があり、図やグラフ、アニメーションを使った説明やサーベイメーターによる測定実験等が子どもにも分かりやすく、理解が進んだことがうかがえる結果となった。また「現状を把握できたことが安心につながった。今後も継続的に情報発信が必要に思う（保護者）」「全く知る機会がなかったので興味を持った（保護者）」等、保護者からは触れる機会の少なかった森林の中や林産物の放射性物質の状況が知れたことがよかったと高く評価された。

低い評価としては「放射線ってどんなもの？」同様に小学校低学年～中学年の参加者から「内容が難しい」との意見があったほか、保護者からは「長くて途中で飽きてしまった」との意見があった。

「森と木に親しもう」:

「芯があることや、年輪、木の皮の剥がれ方や硬さの違いが興味深かった（子）」「木の輪切りを実際に見たり触ったりしながら説明を聞き、森を近くに感じる事ができた（親）」とい

った、森林や木への興味が深まったことがうかがえる意見が子ども、保護者ともに多く寄せられ高い評価を得た。

低い評価としては「木の輪切りの判別が難しかった（保護者）」「話が続いて子どもが飽きてきてしまった（保護者）」との意見があった。

#### 「森のめぐみ なめこ収穫」:

昨年度に引き続き、参加者が約10日間ナメコを育て収穫するという時間をかけた体験型のコマであり、全コマの中で最も満足度の高い結果となった。「ナメコがどうやってできるのか知ることができてうれしかった。とっても美味しく作れた（子）」「ナメコを毎日観察するのが楽しかった（子）」との意見が寄せられた。また、「「苦手なキノコも食べる！」と食育にとってもよかった（保護者）」との意見に代表されるように、昨年度同様キノコ嫌いの子どもが食べるようになり食育としても効果的であったことがうかがえるコメントが子ども、保護者ともに多く寄せられた。

一方、昨年度同様にライブ配信時にナメコが収穫状態まで育ておらず、低い評価となった家庭もあった（参考値 ナメコ収穫時期：ライブ配信日以前5%、配信日当日11%、配信日以降84%）

#### 「【動画】端材であそぼう！—端材デザイナー編—」:

「何を作ろうか考えワクワクして楽しかった（子）」「子どもが久しぶりにゲーム以外に夢中になっていた。家で木工の機会がなかったのでよかった。創意工夫している姿も見られた（保護者）」といった、木の良さや木を使って遊ぶことの楽しさを実感したり、木工への関心が高まった様子がうかがえるコメントが寄せられ高く評価された。

低い評価としては、昨年度は全員が基本型は同じオーナメントを制作したが今年は完全に自由制作としたため「みんなで一緒のものを作りたいかった（子）」「端材がかさばる。できるものが決まっていて最小限の量の方がありがたい（保護者）」という意見があった。

なお、本動画はライブ配信後に参加者の任意のタイミングで視聴・クラフト制作が行える形式としたため、回答者のうち74名（23%）は未視聴だった。

### イ 年代別の傾向

子ども:

「放射線ってどんなもの？」と「福島森、今どうなってるの？」については、年代をさらに細かく分けてみると、2つのコマの傾向がほぼ同様のため、併記して整理する。1と2の回答が、中学生以上100%・100%、小学校高学年89%・85%、小学校中学年66%・66%、小学校低学年64%・61%だった。

昨年度も小学校高学年と中学年の結果には差があったが、今年度も多少の差はあったと言える。ただし、今年度の結果から、小学校中学年以下は、低学年の結果が中学年よりも高いなど、年齢だけで説明できない個人差が出てくるのが分かった。今年度は、対象年齢を小学校中学年以上と引き下げて実施したが、想定した対象年齢層には講義内容の理解が促進されたといえる結果となったと考える。

「森と木に親しもう」と「森のめぐみ なめこ収穫」は、傾向がほぼ同様のため、併記して整理する。小学校高学年以上86%・82%、小学校中学年以下76%・74%といずれも高い満足度で、年齢層による大きな差はみられなかった。

「【動画】端材であそぼう！—端材デザイナー編—」は、他のコマより満足度が下がるが、

小学校高学年以上 63%、小学校中学年以下 58%と年齢層による差は見られず、昨年度の課題であった、対象年齢と制作物のミスマッチは改善されたと言える。

#### 保護者：

保護者は、1と2の回答が、「放射線ってどんなもの？」84%、「福島森、今どうなってるの？」79%、「森めぐみ なめこ収穫」79%、「森と木に親しもう」82%、「【動画】端材であそぼう！—端材デザイナー編—」59%といずれも満足度は高かった。

#### ②福島森の中の放射線量はだんだんと下がっていることや、キノコは今でもお店に出せない場所があること等は理解できたか

	1・2合計				1				2			
	全体	(内訳) 子ども小 学校中学 年以下	(内訳) 子ども小 学校高学 年以上	保護者	全体	(内訳) 子ども小 学校中学 年以下	(内訳) 子ども小 学校高学 年以上	保護者	全体	(内訳) 子ども小 学校中学 年以下	(内訳) 子ども小 学校高学 年以上	保護者
⑥森林中の放射線量やキノコ出荷制限についての理解度	83%	67%	84%	94%	62%	41%	71%	73%	21%	26%	13%	21%

#### ア 回答者全体の傾向

1と2の回答で83%と理解度は高く、「場所によってお店に出せないキノコがあることを初めて知った(子)」「福島森の放射線量のことをどこかで不安に思いながら最近では報道されない内容だったが、実際に放射線量が減っている現状について理解を深めることができた(保護者)」という意見に代表されるように、「放射線ってどんなもの？」及び「福島森、今どうなってるの？」の実験やクイズを多用した講義によって子どもが興味を持って聞き理解が進み、また保護者も本シンポジウムによる知識や情報の提供によって理解が促進されたことがうかがえる。一方、「難しかった」との回答もあった。

#### イ 年代別の傾向

年代別に理解度をみると、小学校高学年以上が1と2の回答で84%と高く、対して小学校中学年以下は67%と若干下がったものの、半数以上は理解ができたと回答し、想定した対象年齢層には理解が促された。①のイ「放射線ってどんなもの？」「福島森、今どうなってるの？」の結果でも記したように、対象年齢に満たない子どもには若干難解だったものの、対象年齢の小学校中学年以上は理解度が高く、適切なレベルの内容だったといえる。保護者は1と2の回答で94%と非常に高い理解度だった。

#### ③福島森の食べ物(キノコなど)を食べたい、森に遊びに行ってみたいなど、福島県を応援する気持ちになったか

	1・2合計				1				2			
	全体	(内訳) 子ども小 学校中学 年以下	(内訳) 子ども小 学校高学 年以上	保護者	全体	(内訳) 子ども小 学校中学 年以下	(内訳) 子ども小 学校高学 年以上	保護者	全体	(内訳) 子ども小 学校中学 年以下	(内訳) 子ども小 学校高学 年以上	保護者
⑦福島を応援する気持ち	92%	87%	91%	96%	77%	70%	82%	80%	15%	17%	9%	15%

#### ア 回答者全体の傾向

1(思う)と2(どちらかというと思う)の回答で92%と、9割以上が応援したいと回答し、「福島森のキノコを食べたり、森を大事にしたいと思った。いっぱい森で遊びたい(子)」

「絶対福島へ行ってみたいね、スーパーで福島の食べ物を探したいねと子どもと話した（保護者）」等のコメントが寄せられた。

## イ 年代別の傾向

1と2の回答が、小学校高学年以上91%、小学校中学年以下87%と非常に高く、保護者は96%とほぼ全員が応援したいと回答した。一方で「キノコが苦手なので食べて応援することができない（子）」というコメントがあり、本シンポジウムでは木を使ったりキノコを食べることで応援しようと伝えているため、応援に消極的な理由となったと考えられる。

### ④その他の感想・意見

子どもからは、「福島が身近に感じて行きたくなった」「特に木の話とキノコの話が面白かった」など、福島の森林や林産物に親しみを持ったというコメントが多くあり、また「初めは難しいお話だったが、チャットもあり楽しく勉強することができた」「キノコが嫌いだったけど育つのが楽しみで毎日お水を撫でながらあげた」等、体験型の内容が良かったというコメントも多数寄せられた。さらに「元々工作が好きで、今回端材を追加で買ってもらった」「今度は他のキノコも育ててみたいと思った」といった、次の行動へとつながるようなコメントもみられた。

保護者からは、子ども同様に体験型の内容を高く評価する意見が多数あったほか、「親子で勉強になったし福島について話すきっかけにもなりよかった」「自宅に届いた木が、なんの木なのか子どもと話し合えたのが楽しかった。実際にそれぞれの木の軟らかさや、香りの違いが体感できてよかった」等のコメントがあり、動画講義やライブ配信形式によって親子が一緒に会話等をしながら学べたことや、子どもが興味を持つ内容がよかったと高い評価を得た。

また、子ども、保護者ともに充実した内容に満足感がありまた参加したいとのコメントが寄せられた。

一方、子どもが飽きてしまったという保護者から「Zoomなど他の参加者も見えるような参加方法がよかったかもしれない」という意見もあった。

## 5) 企画・運営改善

準備段階から当日までの企画・運営等について、実施状況、参加者アンケート、シンポジウム実施後のミーティング等から、成果、問題点、改善方法案を取りまとめた。

### ①準備作業(企画に対するものも含む)

	成 果	
	問題点	改善方法案
開催日の設定・検討	特記事項なし。	特記事項なし。

開催会場の選定・検討	<b>成 果</b>	
	後援の中野区にご協力いただき、木材が使われた会場から配信ができ（配信の背景に映り込み）説得力のある映像となった。	
	<b>問題点</b>	<b>改善方法案</b>
	福島県産材を使用していたため第一候補として計画していた中野区内の体育館は、オリンピック開催の影響が11月まで残り使用できなかった。	今回は致し方ないが、可能な限り早い段階から会場の仮予約の交渉を始める必要がある。
登壇候補者の選定・調整	<b>成 果</b>	
	子ども向けイベント等の経験が豊富にあり、画面を通して対象年齢層へ分かりやすく「伝える力」のある登壇者が選定されており、プログラムの魅力の増幅へと繋がった。	
	<b>問題点</b>	<b>改善方法案</b>
	特記事項なし。	特記事項なし。
広報対応	<b>成 果</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・告知ポスター（チラシ）は、対象年齢である小学生中学年以上とその保護者の目に留まりやすいよう明るくキャッチーなデザインを採用した。また、掲載情報を絞って文字数を減らし、プレゼント品が目を引くようにレイアウトしたり、写真を大きく多用する等で、分かりやすく興味を引きやすい紙面になったと考える。</li> <li>・広報手法のうち参加者増に繋がったと考えられる方法としては以下が挙げられる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>*開催市区内の全小学校の3～6年生へのチラシ配布：参加者数が最も多い広報手法だった（全体の72%）。</li> <li>市区に林業や環境等の専任の課があり、日頃からイベントや学校教育の中で普及啓発を行っていることで市区民の環境等への意識が高い。また、市区への協力依頼の際に丁寧に働きかけたことで、市区担当者等に熱心に対応していただいた。その結果、参加者数が非常に多く、定員も例年よりも早く満員となったと考えられる。</li> <li>*知人等への直接の広報（口コミ）：次点で参加者数が多い広報手法だった（全体の11%）。</li> <li>参加者が信頼関係のある知人からの情報によって安心感を持つことで、不特定多数に向けた広報よりも参加率が上がると考えられる。</li> </ul> </li> <li>・参加者が配信当日まで気持ちを高められるよう、端材クラフトの作品例やナメコ栽培キットの育て方のノウハウの提供・質疑応答などをTwitterで情報発信</li> </ul>	

	した。Twitter 利用者からはナメコ栽培に関する質問等やライブ配信の感想等があった。	
	<b>問題点</b>	<b>改善方法案</b>
	子どもが対象年齢に満たない未就学・低年齢のみの参加者がみられた。	募集時に年齢制限について、注意書きを記載することを検討する。
	事務局 Twitter のフォロワー数がシンポジウム告知前 57 名→シンポジウム終了後 89 名（2022 年 2 月時点）と参加者数に対して 32 名の増加だった。 （参考：昨年開設時 0 名→シンポジウム終了後 55 名）	引き続き参加者への事前案内メール等で Twitter の紹介を続けるとともに、継続して情報発信等を細かに投稿していくことが必要。
開催方法、プログラムの企画・時間設定、配付資料・準備物	<b>成 果</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインとしたことで開催場所によらない、全国からの参加が得られた。</li> <li>・動画コンテンツ、ライブ配信コンテンツともに全ての内容に対して参加者の反応が良く、ライブ配信中のチャット及びアンケート結果からも充実したものであったことが分かり、プログラム全体のバランスが良かったと考えられる。</li> <li>・事前リハーサルを本番同様の進行で実施したことで、画面の切り替えや資材出しのタイミング等の確認が不足なくなされ、進行を滞りなく行うことができた。</li> </ul>	
	<b>問題点</b>	<b>改善方法案</b>
	オンライン開催は会場開催と異なり、参加者の参加状況の実績が把握しづらい。ライブ配信当日の参加者数が 469 家庭、配信翌日の参加者数が 82 家庭（469 家庭とは重複しない者）、実施後一か月間の合計は 597 家庭と、聴講や関係者の視聴を加味しても、500 家庭中相応の参加があったと推察される。参加者とその他を分けられないので正確な数字が出せないこと、どの程度の視聴時間なのかが把握できない（参加者数は、アクセス解析で重複のない視聴者数である『ユニーク視聴者数』の数字を参照した）。	コロナ禍により、オンラインの開催手法も選択肢が広がってきた。Zoom 等の参加状況を把握できるツール等、オンラインの普及啓発手法について柔軟に検討する。

	今回行ったライブ配信の「参加者限定公開」では限られた人数にしか普及できず、オンラインのメリットを最大限発揮できない側面がある。	限定公開によって、配付資料の送付や事前のナメコ栽培体験、その他のきめ細かな連絡・対応が可能となっている。広く制限なく公開することによるメリット、デメリット双方を考慮し、幅広い普及手法を今後も検討する必要がある。
	参加者に事前配付したナメコ栽培キットの栽培方法への質問が多く寄せられた。	栽培手法の説明ペーパーが、後送となる端材キットの方に封入されていたため、事前のメールや事務局 Twitter 等で栽培方法について説明を行ったが、周知が不十分だったと考えられる。事前案内手法を改善するとともに、説明ペーパーが栽培キットよりも先着となるよう、発送タイミングを調整する。
動画コンテンツの企画・制作	<b>成 果</b>	
	・今年度は動画コンテンツのデザイン性と企画内容・構成の改善に力を入れ、2022 年 2 月時点で昨年度公開の動画よりも今年度更新した動画の再生数が多くなっている。引き続きコンテンツの充実を図っていきたい。	
	<b>問題点</b>	<b>改善方法案</b>
	可能な限り、シンポジウムのライブ配信当日から日を置かずにコンテンツを集中的に更新した方が、ライブ配信参加者には見てもらいやすい。	今年度も新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、思うような撮影日程が取れないこともあったが、左記点は可能な限り優先し、撮影・制作を行う。

## ②シンポジウム当日の対応

会場設備・準備物等	<b>成 果</b>	
	昨年の課題であった広さが十分にあり、演者、スタッフともにスムーズな動線が確保できた。	

		問題点	改善方法案
		施設の規約上、会場への入室可能時間が9時からであったため、当日のセッティングが完了したのが配信開始20分前となった。	配信システムにトラブルが起こった際に対応できるよう、セッティングは配信開始の2時間前に終わらせておくことが望ましい。そのため、早くから入室可能な時間、または前日にセッティングを終えられるよう会場を確保することも一案である。
		チャット確認用のタブレットが見つらいとの意見が出演者からあった。	大きいサイズのタブレットを用意する等、チャット確認の手法を検討する。
		チャット確認用のタブレットがネットワークの不調により、配信中に一度通信が途切れた。	会場の設備にネット回線がなく、無線LANで接続していたが、安定性の面から有線LANで接続できる会場が望ましい。また、予備のタブレットも準備しておく。
<b>成 果</b>			
福島 の森 のハカセ になろう の運営 状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者は講義内容に興味を持って聞く様子がみられた（ライブ配信中のチャットやアンケート結果より）。[全コマ共通]</li> <li>チャットを利用したクイズを用いた参加型の講義や、司会者が参加者代表となって実験等を行ったことで参加者が関心を持っていた。</li> <li>講師への質問が非常に多くチャットに寄せられ、参加者が講義を熱心に聞いていたことが見て取れた。[森と木に親しもうと共通]</li> </ul>		
	問題点	改善方法案	
	参加者からのチャットで「放射線は安全なのか、怖い」という質問があった。それに対して安全性を伝えるため詳細に説明をすると回答が長くなる。また、安全の基準が人それぞれであり、答え方が難しい。	「放射線が怖い、どうすればよいか」、「放射性物質が入ったものを食べても大丈夫か」等の漠然とした答えにくい内容の質問を想定し、小学生にも理解できる表現による回答を事前に検討しておく。	



森と木に親しもうの運営状況	<b>成果</b>	
	<p>・参加者に事前に配付した木の輪切りを使って樹種の特長等を説明し、参加者に手元の輪切りの樹種をクイズ形式で考えさせたことで、木への興味・関心が高まる様子がみられた（ライブ配信中のチャットやアンケート結果より）。</p> <p>・実際の端材クラフト体験は別途動画を見ながら作成することで、ライブ配信自体が時間短縮でき、参加者も別日に好きなタイミングで木工が楽しめたことは、長丁場の配信による集中力の低下対策の観点からもよかった。</p>	
	<b>問題点</b>	<b>改善方法案</b>
	<p>予定時間を若干オーバーした。伝えたいことが多くあったため、詰め込みすぎた感があるとの意見が出演者からあった。</p>	<p>魅力的な講義内容で参加者の反応もよかったことから、予定時間をオーバーしていたがそのまま進行した（結果、配信終了時刻が予定から30分オーバーした）。予定時間内に収まるよう、講義内容等を事前に出演者と詳細に打ち合わせることを検討する。また、基本的にはスケジュールどおり進行するが、本番の状況を見て臨機応援に対応する。</p>
森のめぐみなめこ収穫の運営状況	<b>成 果</b>	
	<p>ライブ配信当日だけの体験ではなく、事前に自宅で10日間程度をかけたナメコ栽培の体験時間があったことは、学習効果が非常に高かった。</p>	
	<b>問題点</b>	<b>改善方法案</b>
	<p>気温の影響もあり、参加者が栽培していたナメコが、配信時に収穫状態にまで育っていない家庭が多くあった。</p>	<p>今回は栽培期間を10日間として発送したが、栽培日数を再度検討する。</p>

成 果		
シンポジウム（ライブ配信）全体の運営管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予定より終了が 30 分オーバーしたものの、配信が途切れる等のトラブルもなく、全体としておおむね予定どおりに進行され配信が終了した。</li> <li>・コロナ禍で楽しみや様々な経験が不足する中で、自宅で親子が一緒に体験できることが、想定していた以上に参加者から高い評価を受けた。</li> <li>・ライブ配信のメリットとして以下の点があげられる。               <ul style="list-style-type: none"> <li>①参加者の所在地を選ばず、全国展開の普及が可能。</li> <li>②本配信では参加者数の上限を定めたが、ライブ配信形式では参加者数や地域の制限がなく、多くの対象者に普及が可能。</li> <li>③各自の自宅等から参加可能なため、天候等、当日の状況に参加者率等が左右されにくい。</li> <li>④アーカイブ配信を行ったことにより、当日配信を視聴できなかった、内容を聞き逃した等があっても何度でも視聴が可能。</li> </ul> </li> <li>・チャット機能を使って他の参加者の反応が見られ、参加者同士がコメントで交流するなど、集合型のシンポジウムとは違ったリアクション手法の良さ（気軽さ）や一体感があった。</li> <li>・昨年度よりもチャットを使ったコミュニケーションに参加者が慣れてきた様子が見られ、大変盛り上がった。</li> <li>・チャット機能を使って質疑応答を行うことで、講師と参加者双方向のやり取りが可能となった。また、質問が文章化されていることで、出演者が答えやすいメリットがあった。</li> </ul>	
	問題点	改善方法案
	<p>ライブ配信中にプレゼント品であるエリンギの惣菜の画像も示して協力を要請したが、アンケートの回収率が 17% と低かった（R 2（ライブ配信）：23%、R 1（集合型）：福島会場 93%、東京会場 70%）。このため、再度、メールでアンケートの URL を記載して協力を要請し、33%の回答率を得た。</p>	<p>昨年度からの課題であり、今年度はアンケート回答者へのプレゼント品を一般的に木製品よりも関心の高いであろう食品にすることで対応したが、効果が低かった。このため、より効果的な回収手法を検討する必要がある。</p>
	<p>チャットによる質問時間を設けたが、出演者と参加者との間に配信のタイムラグが 20～30 秒生じ、質問を待つ間、進行が途切れる場面があった。</p>	<p>先立って質問を書き込むよう事務局がチャットで促したが、参加者は配信画面上が質問コーナーに入ってから質問を書き込み始めた。そのため、出演者が先に「今から質問を受け付ける」と誘導し、質問が入ってくるまで別の話題で</p>

		繋ぐ等、時差を埋める対応を検討する。
	チャットで参加者同士がプログラム内容に関係のない話題で盛り上がる場面があった。	今年度はチャット対応の専任者を配置したが、引き続き参加者が適切にチャット内でコミュニケーションが図れるよう気を付ける必要がある。

## 6)小括

シンポジウムの実施状況、シンポジウム実施後のミーティング、参加者アンケートの結果・考察、企画・運営改善等から小括した。

### ①プログラムの企画内容について

#### ア シンポジウム全体

- ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、昨年度に引き続きオンライン・ライブ配信及び事前・事後の動画コンテンツ配信にてシンポジウムを実施した。このことにより開催場所によらない、全国からの参加が得られた。
- ・今年度も昨年度に引き続き、次世代を担う若年層（子ども及びその保護者）が、福島の森・木・林産物の魅力や現状を知ること、さらに、福島県の森林・林業再生に貢献する何らかの行動に繋がることを目指した。一昨年度の会場での親子向けシンポジウム及び昨年度の親子向けオンラインシンポジウムの実施成果から、全体を通して楽しめる要素があり、体験を伴う「学び」が、子どもだけではなく保護者にも有効であることが分かったため、それを踏まえてよりよいシンポジウムの開催を目指した。
- ・参加者の様子、アンケートの結果から「福島の森林等の現状の理解促進」については、子ども・保護者ともに理解度も高く、またプログラム全体を通して満足度も非常に高かった。体験（木工、キノコ栽培・収穫）と学びを通して、森の恵みを楽しみながら現状を理解するという、狙い通りの成果を得た。これは昨年度から始めたオンラインによる普及の中で、子どもに理解ができるような配付・投影資料の作成、飽きさせないプログラムを作成したことが大きい。結果、「福島のキノコを食べたり、森を大事にしたいと思った。いっぱい森で遊びたい」「買い物に行ったら福島のものを見つけるのが楽しみになった」「絶対福島へ行ってみたいね、スーパーで福島の食べ物を探したいねと子どもと話した」等、行動に繋がるコメントが子ども、保護者ともに多くみられたことから、シンポジウムの開催が「森林・林業の再生に貢献する行動」に繋がるきっかけになったと考えられる。
- ・課題として、オンラインの開催方法では会場開催と異なり、参加者の参加状況の実績が把握しづらいという面がある。配信時及びアーカイブ動画の視聴者数で、重複のない視聴者数（＝参加者数）を推察はできるが、参加者個人ごとにどの程度の視聴時間なのかが把握できない。また、アンケートの回収率が会場型と比較して大幅に低いのはもう一つの課題として残る。

#### イ アンケート結果から

- ・アンケートの各コマの満足度は、1（満足）～5（不満）の5段階評価に6（未視聴）を加

えて実施し、主として満足度 1（とても満足）、2（どちらかという満足）の割合について考察を行った。

- ・参加者全体としては、1と2の割合をみると、「放射線ってどんなもの？」77%、「福島の森、今どうなってるの？」73%、「森と木に親しもう」79%、「森のめぐみ なめこ収穫」80%、「【動画】端材であそぼう！—端材デザイナー編—」59%（未視聴を除くと76%）で、シンポジウムに対する満足度は全体的に高かった。
- ・アンケートの集計・考察は、回答者全体の傾向に加え、子どもと保護者に分け、さらに子どもは小学校中学年以下と小学校高学年以上の年代別に分けて傾向の違いがみえるものについて結果を考察した。
- ・各コマの満足度は、子どもは、「放射線ってどんなもの？」と「福島の森、今どうなってるの？」について年代を細かく分けてみると、2つのコマの傾向がほぼ同様に、1と2の回答が、中学生以上 100%・100%、小学校高学年 89%・85%、小学校中学年 66%・66%、小学校低学年 64%・61%だった。小学校中学年以下でも6割は満足度が高く、想定した対象年齢層には講義内容の理解が促進されたといえる結果となった。
- ・「森と木に親しもう」と「森のめぐみ なめこ収穫」は、傾向がほぼ同様のため、併記して整理する。小学校高学年以上 86%・82%、小学校中学年以下 76%・74%といずれも高い満足度で、年齢層による大きな差はみられなかった。
- ・「【動画】端材であそぼう！—端材デザイナー編—」は、他のコマより満足度が下がるが、小学校高学年以上 63%、小学校中学年以下 58%と年齢層による差は見られず、昨年度の課題であった対象年齢と制作物のミスマッチは改善されたと言える。
- ・保護者は、1と2の回答が、「放射線ってどんなもの？」84%、「福島の森、今どうなってるの？」79%、「森にと木に親しもう」79%、「森のめぐみ なめこ収穫」82%、「【動画】端材であそぼう！—端材デザイナー編—」59%といずれも満足度は高かった。
- ・森林中の放射線量やキノコ出荷制限についての年代別の理解度は、1（理解できた）と2（どちらかという理解できた）を合わせて、小学校高学年以上が84%と高く、小学校中学年以下は67%と下がったものの、半数以上は理解ができたと回答し、想定した対象年齢層には理解が促された。保護者の理解度は94%と非常に高かった。
- ・「福島を応援したい気持ちになったか」の回答は、1（思う）と2（どちらかというと思う）を合わせて小学校高学年以上91%、小学校中学年以下87%と非常に高く、保護者は96%とほぼ全員が応援したいと回答した。一方「キノコが苦手なので食べて応援することができない（子）」というコメントがあり、本シンポジウムでは木を使ったりキノコを食べることで応援しようと呼んでいるため、応援に消極的な理由となったと考えられる。保護者はコメント等からは消極的な理由は見えなかった。「福島のキノコを食べたり、森を大事にしたいと思った（子）」「絶対福島へ行ってみたいね、スーパーで福島の食べ物を探したいねと子どもと話した（保護者）」等のコメントが多数あり、本シンポジウムが森林・林業の再生に貢献する行動に繋がるきっかけとなったことがうかがえた。

## ②広報対応及び情報共有について

- ・広報手法のうち参加者増に繋がったと考えられる方法としては以下が挙げられる。  
\*開催市区内の全小学校の3～6年生へのチラシ配布：参加者数が最も多い広報手法だった（全体の72%）。

市区に林業や環境等の専任の課があり、日頃からイベントや学校教育の中で普及啓発を行っていることで市区民の環境等への意識が高い。また、市区への協力依頼の際に丁寧に働きかけたことで、市区担当者等に熱心に対応していただいた。その結果、参加者数が非常に多く、定員も例年よりも早く満員となったと考えられる。

\* 知人等への直接の広報（口コミ）：次点で参加者数が多い広報手法だった（全体の 11%）。参加者が信頼関係のある知人からの情報によって安心感を持つことで、不特定多数に向けた広報よりも参加率が上がると考えられる。

- ・ 課題として、子どもが対象年齢に満たない未就学・低年齢のみの参加者がみられたため募集時に年齢制限について、注意書きを記載することを検討する。
- ・ 実施後の情報共有として、農林水産省公式 YouTube「maffchannel」内の再生リスト『福島のもり応援隊動画』にライブ配信のアーカイブ動画を掲載したほか、大工による端材を使った木工クラフト、田人林業研究会の活動現場潜入やインタビュー、福島県産木製品の紹介等、福島県の林業・林産物をアピールする動画を制作した。またライブ配信のアーカイブも公開し、当日の参加者以外にも視聴可能とした。
- ・ 今年度は動画コンテンツのデザイン性と企画内容・構成の改善に力を入れ、2022 年 2 月時点で昨年度公開の動画よりも今年度更新した動画の再生数が多くなっている。引き続きコンテンツの充実を図っていきたい。

### ③シンポジウム当日の運営・発表状況について

- ・ 動画コンテンツ、ライブ配信コンテンツともに参加者の反応が良く、プログラム全体のバランスが良かったと考えられる。
- ・ 動画コンテンツ、ライブ配信コンテンツともに、子ども向けイベント等の経験が豊富にあり、画面を通して対象年齢層へ分かりやすく「伝える力」のある登壇者が選定されていた。
- ・ 講師への質問が非常に多くチャットに寄せられたことで、参加者が興味を持って視聴し、講義を熱心に聞いていたことが見て取れた。
- ・ 今年度の課題として、チャットによる質問時間を設けたが、出演者と参加者との間に配信のタイムラグが 20～30 秒生じ、質問を待つ間、進行が途切れる場面があった。先立って質問を書き込むよう事務局がチャットで促したが、参加者は配信画面上が質問コーナーに入ってから質問を書き込み始めたため、出演者が先に「今から質問を受け付ける」と誘導し、質問が入ってくるまで別の話題で繋ぐ等、時差を埋める対応を検討する。
- ・ また、チャット確認用のタブレットがネットワークの不調により、配信中に一度通信が途切れるトラブルがあり、今後の課題として、配信会場は有線 LAN で接続できる会場が望ましいため選定時に留意する必要がある。

### ④その他

- ・ 平成 26 年度から 30 年度に行ったシンポジウムでは、今回と同じく関係者だけでなく一般市民も含めた参加を想定して企画していたが、参加者の大半は林業関係者であり、一般市民への普及啓発が課題であった。あわせて、「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略（復興庁）」の中で、伝えるべき対象として「児童生徒及び教師等教育関係者」が一番上位に挙げられているように、次世代を担う子どもたちとその保護者に、福島の森の実情を伝え、理解を促進し、さらに一歩進み、福島県の森林・林業再生に貢献する何らかの行動

を起こす応援団を増やしていくことは、引き続き重要な課題になる。

- これまでの実施結果から「体験」という要素が普及手法として有効であることが分かったため、コロナ禍の中、また、オンライン形式で「体験」をどう担保するか検討した。今年度は、①自宅で事前に約2週間ナメコを栽培し、収穫体験を行う、②ライブ配信当日に事前に送付した木の輪切りを教材として使用する(事後に木工体験の材料にすることも想定)、③事前に木工キットを送付して自宅で木工体験を行う、こととした。コロナ禍でオンラインでの学習・普及の手法が飛躍的に開発されるとともに、その体験者も増え、コミュニケーションやネットワーキングの新時代が始まっている。今後も、オンラインの手法でも理解と共感を深くもたせよう、新しい切り口で柔軟に検討していく必要がある。
- 広報手法については、広く一般のメディアに取り上げてもらえるよう、魅力的なプログラムを企画することはもちろんのこと、今年度の成果を分かりやすくPRしながら取材を依頼していくことが必要となる。